

儀場において執りおこなわれ、多数の遺族、縁故者、市民が参列して冥福を祈った。また東部五カ町村においては被害のもっとも多きかった現場にそれぞれ祭壇を設けて、法要を営み、軍需工場においても勤労動員の殉職者を社葬に、西部の玉津村、伊川谷村においても、寺院や公会堂において部落葬を、女子挺身隊の犠牲者は準公葬をもってその冥福を祈った。(翌昭和二年三月一七日、戦災殉難者の霊を弔う追悼大法要が、市庁舎講堂(元市立第一高女)において厳かにおこなわれた。主催者は戦災援護会兵庫県支部、神戸市、神戸新聞社、後援は兵庫県であった。)

第四節 空襲記録

一 神戸の初空襲 — 昭和十七年四月一日 —

昭和十七年(一九四二)四月一日、ジェームズ・エッチ・ドゥリットル中佐指揮のノース・アメリカンB 25型爆撃機がはじめて本土を襲った。当時日本は、西太平洋上の制海権・制空権を確保しており、戦局は有利に進展していたころの出来ごとであった。この日、米航空母艦ホーネットから飛びたった一六機は、東京に一三機(川崎・横浜・横須賀を含む)、三機が名古屋、四日市、和歌山県下、神戸へ投弾したのち、片飛行で母艦に帰らず、中国の麗水飛行場に着陸する予定であったが、空襲後一機はウラジオへ、その他は中国の寧波・南昌付近に降下し、塔乗員五人はわが軍に捕らえられた。この日の空襲は全く防空の虚をつかれたもので、市民

は日本の新型機かと思つて空を仰いでいたところへ不意に爆弾・焼夷弾を落下され、はじめてアメリカの飛行機であることを知り、あわてて待避した。東京では空襲がはじまってから一五分後にやっと空襲警報が出るといふ不手際であつた。神戸においては二時半ごろ空襲警報が鳴り、市民が空を仰いだときには、米一機はゆうとうと市の上空を低く旋回し、兵庫区中央市場付近の西出町・鍛冶屋町・島上町・船大工町・切戸町・宮前町・川崎町の七町内に二・三焼夷弾四個をばらまいていた。書類が焼失して、当時の被害の程度は判らないが、この空襲で市の従業員一名が直撃弾をうけて最初の犠牲者となり、民家のほか、住友倉庫、米穀配給組合の米穀倉庫などに被害があつた。この時の被害は軽少なものであつたが、かくもやすやすと米機の侵入を許したことは軍当局を大いに狼狽させるとともに、民間防空陣に与えた衝撃は実に大きかつた。

二 B 29 神戸を初空襲 —— 昭和二〇年一月三日 ——

この第一回空襲以後しばらく空襲はなかつたが、昭和一九年七月、サイパン島の失陥後米軍機の動きはようやく活発となり、一月二四日B 29 八〇機による東京の大空襲があり、名古屋、大阪にも大空襲があつて、神戸の空襲も時期の問題とされていた。一月二五日午前九時B 29 一機が神戸上空に姿をあらわし、約一時間にわたつて、阪神間の工業状態を撮影、ついで同一八日午後一時三〇分B 29 六、七機がふたたび神戸上空に侵入、神戸および県下を広範に偵察、南方へ去つたが、これは空襲前の偵察飛行であつた。

かくて二〇年（一九四五）一月三日B 29 一機が神戸を初空襲した。マリアナ基地を飛び立ったB 29 九〇機は

主力をもって名古屋を攻撃し、一部をもって東は浜松、西は大阪・神戸に來襲したもので、大阪へは一〇機、神戸へは一機が來襲、午後二時三分空襲警報が発令され、神戸区、淡東区および碓泊中の艦船に対し、二・七*の焼夷弾五〇個を投下して南方海上に去った。この空襲で埠頭および在港の艦船に若干の被害があり、防衛總司令官東久邇宮殿下が空襲被害状況偵察のため來神された。

三 川崎航空機(明石)の空襲 ——二〇年一月一九日——

一月一九日には隣接の明石市和坂の川崎航空機明石工場の大爆撃があり、近畿地区で初めて一ト爆弾が投下され、神戸市にも被害があった。この日、午後一時二三分空襲警報が発令され、B 29八〇機が紀伊半島方面より七梯队に分れて來襲、主力をもって明石市を攻撃し、その一部は京都、大阪、尼崎、神戸、姫路、高知を爆撃して三時南方海上に去った。

この日の攻撃目標は川崎航空機工場で、この爆撃で同工場および周辺に大被害を与えた。投下爆弾五三一個、この爆撃で全市に死者三三二人を出し、隣接の明石郡玉津村・伊川谷村(三年三月神戸市に編入・現垂水区)も、この空襲の余波をうけて五三個の爆弾が投下されて、死者二五人を出し、市内では神戸区税関輸出事務所が焼夷弾爆発をうけて犠牲者を出した。B 29が阪神地区に大挙來襲したことはこの日をはじめで、攻撃の意図が、航空機生産施設の破壊を狙ったものであることが明らかになった。神戸市民は一ト爆弾のもの凄い衝きあげるような地下震動を防空壕の中ではじめて体験した。市民はこの時B 29三機が火を噴いて直逆さまに海中

に落ちてゆくすがたを見たのだった。

四 川崎・三菱造船所の爆撃 —— 二〇年二月四日 ——

二月四日は警報が四回も発令され、午後二時と九時二二分に空襲があった。基地を飛び立ったB29一〇〇機は潮岬から二手に分れ、一部は松阪、岸和田市に、主力八五機が十数梯団となって神戸市に侵入、午後二時過ぎから二時間余にわたって、林田区、兵庫区一带および淡東区に爆弾、焼夷弾を混投して南方に去った。この空襲の攻撃目標は川崎・三菱両造船所で、第一梯団が川崎重工業艦船工場を目標に、突堤海面一带にわたって爆撃を加え、建造中の航空母艦二隻その他に大損害を与え、第二、三梯団が三菱造船所、三菱電機ほか和田岬国民学校を、第四梯団が鐘ヶ淵実業（元鐘ヶ淵紡績）ほかを、第五梯団が川崎製鉄、増田製粉、台湾製糖、兵庫運河および西部地帯の軍需工場、在港艦船を攻撃した。投下弾は大、小爆弾、油脂およびエレクトロン焼夷弾だったが、二梯団の攻撃をうけた三菱造船所の被害は大きかった。この空襲で川崎は七〇、三菱は六一の協力工場が爆撃をうけ、淡東・林田・兵庫の各区に大火災がおこり、猛焰天に沖し、付近の工場地帯一带を焼いた。劫火は夜に入っても衰ええず、神戸市初の大火災で、市民ははじめて空襲の実態を知った。

損害は死者二六人、負傷者一〇〇人、建物の全焼全壊一、八五七戸、工場五八、半焼半壊八四戸、罹災者五、八〇二人と記録されている。罹災者には焚出し、特別配給、収容など援護の手がのべられた。

空襲に対する市長告諭

野田市長はこの空襲にあたり、米機退散後直ちに、市民に告ぐる次の告諭を新聞

を通じ、また全市に掲示して市民に冷静なる行動を要望した。

敵機の空襲により、本市に僅少の被害を生じたるも、関係各機関協力し、救助ならびに応急復旧作業は着々進捗中なり。市民各位は冷静沉着、流言に惑わず、よろしく敢闘精神を振起し、生産の倍加に挺身せんことを望む。

五 市役所にも爆弾 ——二〇年二月六日——

二月六日午前零時二七分と一時四〇分にB 29各一機が来襲、灘区・神戸区・淡東区に爆弾一一〇、焼夷弾一四個を投下したが、このうち神戸区の被害がもっとも大きく、市役所にも爆弾二個と焼夷弾が投下された。爆弾は幸い前庭と後庭に落ちたので被害なく、焼夷弾は庁舎の二階西北角の一部を焦したのみで消しとめたが、元町の三越付近・山手の電車道・宇治川市場付近にも投弾したため、死者一四人、負傷者三〇人、家屋の全壊一四、半壊一四〇、罹災者二四一人を出した。なおこの日の空襲で県立第一中学校（現在の神戸高校）、摩耶山などの裏山麓、春日野墓地、火葬場などにも爆弾が投下され、石塔・石燈籠などが多数破壊された。

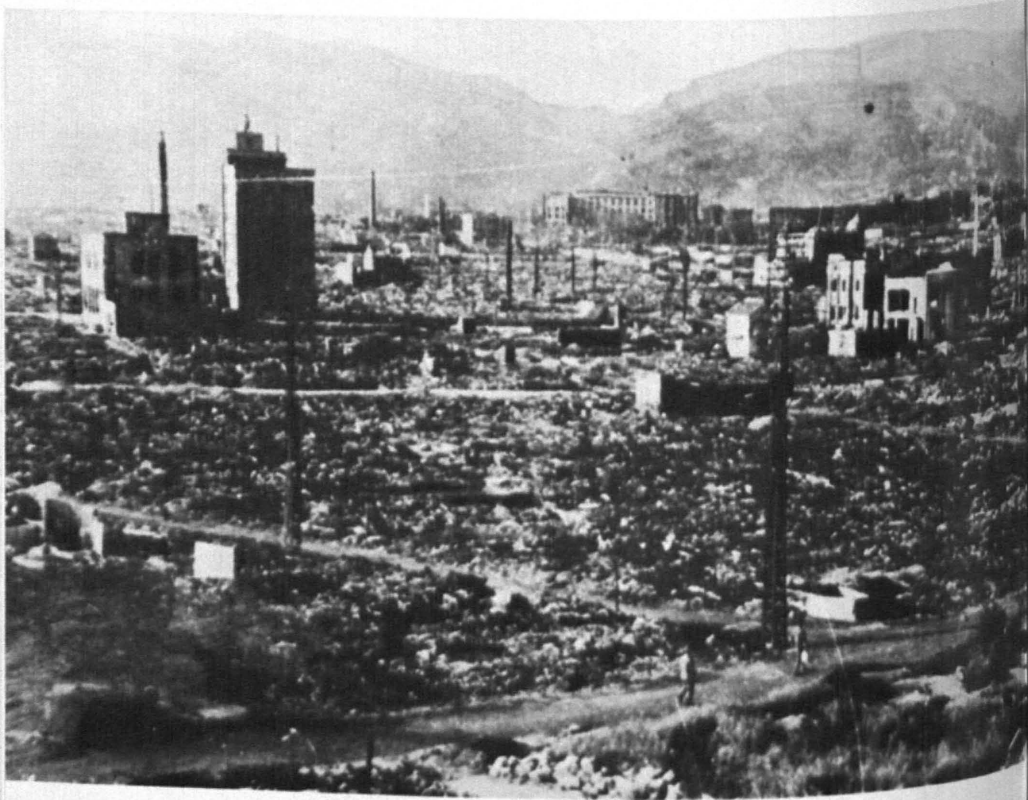
ついで二月八日には葦合区の神戸製鋼所付近、中島通り・宮本通り付近に二〇*爆弾が多数投下され、灘区にもおよんだが、灘区の損害は軽微であった、この日の投弾数は一四六個で死者一三人、負傷者三四人、工場全壊一のほか住宅の半壊四四戸、罹災者二一五人を出した。この前後からほとんど毎日のように空襲があるのど、市民は「空の定期便」と呼んでいたが、二月には大小二二回、二三日の空襲であり、大阪湾にはじめて機

雷が投下された。

六 神戸の夜間大空襲 — 昭和二〇年三月一七日 —

サイパンの米軍航空基地が整備されるにともなうて空襲も一段と活潑になり、東京は三月四日、三月一〇日にB 29各一五〇機による夜間大空襲を受け、市街の約半分を焼いた。都市に対する無差別爆撃がはじまったのである。一二日にはB 29一三〇機が名古屋市に、一三日夜から一四日朝にかけては大阪、尼崎市に大爆撃を加えた。これら大都市の被害状況が判明するにつれ、それが予想以上に大きなものであることがわかったので、市においては関係市に吏員を派し、県と連絡をとって応急対策を講じつつあった矢先、三月一七日の大空襲となったのである。

七〇機で無差別爆撃 三月十七日(土)午前一時四三分、警戒警報、ついで一時五八分空襲警報が発令された。ラジオはB 29の大編隊が遠州灘に、数編隊が紀州沖にあり、多数機が紀伊半島を巡回集結中、阪神方面は警戒を要すとしきりに報じていた。熊野灘↓紀伊半島。高知↓徳島↓淡路東方の二コースで進攻したB 29六〇機が紀淡海峡付近で巡回集結、攻撃態勢をととのえ、その一機が午前二時五分、神戸上空に侵入した。照空燈の光芒が何本も真暗い夜空に光りの縞を描いて侵入機を捕らえ、これを目掛けて高射砲が盛んに火を吹き、砲弾は侵入機の前後にさくれつしていたが、機首を転じた侵入機は須磨の東部と元町↓三宮、灘の上空に三、四個の照明弾を投じて海上に去った。この照明弾の強烈な閃光で今まで真っ暗だった神戸全市が真昼のように



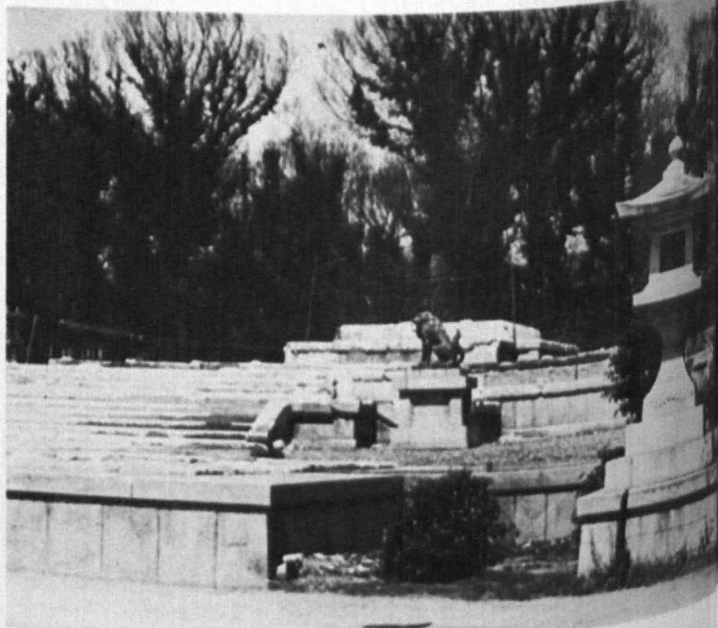
3月17日空襲で焼野カ原
となった神戸市

上 神戸駅プラットホーム
より生田区多聞通り・楠
6丁目付近を望む、山
手の洋館は神戸医専

(神戸新聞社提供)

下 高麗犬と石灯籠だけが
淋しく残った湊川神社

(朝日新聞社提供)



B29六十機を邀撃 殆ど全機を屠る

我制空陣の大戦果

大本営発表(昭和二十年三月十七日十六時) 本三月十七日 時三十分頃より約一時間に亘りB29約六十機神戸地区に襲撃、市街地に對し主として焼夷弾による無差別爆撃を實施せり

右爆撃により市街地に相當の火災發生せるも、其の火勢は十時頃迄に概ね制壓せられたり
 我空地團空部隊は果敢に之を邀撃し、其の二機を撃墜他の殆ど全機に損害を與へたり

中隊攻撃隊 昭和二十年三月十七日 本三月十七日 時三十分頃より約一時間に亘りB29約六十機神戸地区に襲撃、市街地に對し主として焼夷弾による無差別爆撃を實施せり
 右爆撃により市街地に相當の火災發生せるも、其の火勢は十時頃迄に概ね制壓せられたり
 我空地團空部隊は果敢に之を邀撃し、其の二機を撃墜他の殆ど全機に損害を與へたり

敵機、支離滅裂遁走

敵機は、乃吾三機の小編隊をもつて十七日正午約半時より約三時四十分間にわたる侵入、阪神の一帯都市を襲撃の後、回末明までに主力をもちて紀伊半島、一部をもつて熊野灘方面より陸奥に退去せり、この間制空部隊の敢めたる邀撃は相當大なる敵機の若干機に火災を發生せり、觀察空に照準を懸しては以下調査中にして關東區に對する萬全の措置は善と斷せらるるはすなり

本三月十七日 時三十分頃より約一時間に亘りB29約六十機神戸地区に襲撃、市街地に對し主として焼夷弾による無差別爆撃を實施せり



神戶に挑む敵の火の焰

上 三月一七日の神戸空襲について
 大本営の発表を報じた朝日新聞
 下 落下する焼夷弾とわが対空砲火
 (朝日新聞社提供)

四十二機撃墜破

わが高射砲隊の猛威

本三月十七日 時三十分頃より約一時間に亘りB29約六十機神戸地区に襲撃、市街地に對し主として焼夷弾による無差別爆撃を實施せり
 右爆撃により市街地に相當の火災發生せるも、其の火勢は十時頃迄に概ね制壓せられたり
 我空地團空部隊は果敢に之を邀撃し、其の二機を撃墜他の殆ど全機に損害を與へたり

明るくなったと思うと、ここを目標に洋上の六〇機（あるいは七〇機）が一〇梯団となって、はじめは七千呎位の高度であったが、後には二・三千呎の低空で殺到し、周辺部から中心部へ、六呎油脂焼夷弾、エレクトロン焼夷弾、小型爆弾を混投し、無差別絨氈爆撃をおこなった。

その光景は実に物凄く、焼夷弾はザーッと、ザーッと異様な音とともに雨のように降りそそぎ、爆弾がさくれつしたとおもうと、たちまち西の空が赤くなって火の手があがり、兵庫・新開地付近は火の海。飛行機を通ったあとには線を引いたように火の手があがるのが見え、見る見るうちに市内各所にひろがって行く。

わが戦闘機はB29を目掛けて果敢な攻撃をかけ、B29の巨体が火を吹きながら墜ちて行くのがパノラマのようにはつきり望見されたという。

この夜は霞をともなった北風が強く、寒い夜であったが、夜のふけるとともに風は次第に強くなって烈風となった。この風が火勢を煽ったため、各所に飛火して大火災となり、ついに本市の西半分を焼き尽した。北風にあおられて火が路面を走り、風下に避難する人々の群れに追い迫っている様は、さながら地獄の劫火を思わしむるものがあった。

湊川神社西側の溝には炎を避けて焼け死んだ多くの死体があり、兵庫区清盛塚近くの大輪田橋付近では風下に逃れんとして避難した多くの人々は運河に行く手を阻まれ、迫りくる焰に追われて運河の貯木筏の上に飛び降りて逃れようとしたが、対岸は飛び火ですでに燃えているため、腹背に火をうけて多くの人々が運河の中で生命を断った。熱気に堪えかね、水槽の中で死んでいる人もあった。新開地では鉄筋建築の劇場に避難した多

くの人々が吹き込む火焰と熱気のために命を失い、また街の防空壕に避難した人々も猛炎に包まれ、壕中にぎっしり折り重なって蒸し焼きになるなど、見るに忍びぬ惨状が市内いたるところに見られた。

この絨氈爆撃は三時間にわたっておこなわれ、五時十五分ようやく警報が解除された。投弾量についてはわずかに神戸区、須磨区の記録が存するのみで、その他は全く記録がない。両区の投弾量は爆弾三二七個、焼夷弾三万三、六二五個（神戸区―爆弾七四、焼夷弾一万四、三一八、須磨区―爆弾二五三、焼夷弾一万四、二三七）と記録されている。

この夜の空襲について大本営は、

三月一七日二時三〇分ごろより約二時間にわたり、B 29 約六〇機が神戸地区に來襲、市街地に対し主として焼夷弾による無差別爆撃を実施せり。右爆撃により市街地に相当の火災を発生せるも、その火勢は一〇時ごろまでにおおむね制圧されたり。わが空・地軍部隊は果敢にこれを迎撃し、その二〇機を撃墜、その他全機に損害を与えたり。

と発表されているが、この火は容易に消えず、一週間たつてもそこに余燼があった。山火事は一八日夕方ようやく鎮火した。

被害全区におよぶ この大規模な焼夷弾攻撃によって被害は全区におよび、ショッピングセンター元町は三越付近の一面を除いて西半分を灰燼に帰し、新開地、福原も廃墟と化した。その被害は実に甚大でこれを区別にすると

神戸区 栗町、海岸通り、旧居留地、東川崎町から元町四・五丁目・北長狭通り・山手通り、県庁付近から北東にかけて。

林田区 前原、寺池・片山・大塚・尻池・神楽・細田・川西・浪松町・池田広町・一番町・二番町・三番町・御蔵通り・松野通りその他広範囲に。

湊区 平野・祇園・神田・大同・水室・熊野・湊川・石井町ほか。

須磨区 菊池・前池・飛松・板宿・権現・細沢・寺畑・兼広・山畑・東須磨・月見・千守・古川・小寺の各町・車ほか。

真合区 青谷・護国神社付近・布引・川崎裏山も火の海と化し、省線をはさんで生田川以西・加納町以東の省線南部一帯、琴緒町、脇浜町ほか。

灘区 王子・原田町・城内通・灘駅周辺、高羽町。

兵庫区 湊東区はほとんど全焼

(註) 上掲の区名は当時神戸市は「八区制」(灘、真合、神戶、湊東、湊、兵庫、林田、須磨区)であったが、この空襲直後の二〇年五月一日「六区制」(灘、真合、生田、兵庫、長田、須磨区)に改め、警察も六署に統合されて区名を冠することになった。その後隣接町村の合併によって、東灘区・垂水区が設置されて現在は八区である。

港湾施設・軍需関係方面の被害もまた大きく、三菱重工業神戸造船所は造船工作部・造機工作部・鋳造部・外業部ほか構内六〇棟一万五千坪、構外六三棟一万一千余坪を全半焼し、川崎重工業は艦船工場・造兵工場・潜水艦部に大被害をうけ、二〇棟延べ二万二、八三一坪を全半焼、死傷者を出し、同造船所で艤装中の軍艦・船舶などにも被害があった。

市役所関係では、葺合・湊東・兵庫の各区役所が焼失し、県庁・神戸地方裁判所などの官公衙、神戸中央郵便局・神戸中央電話局市外電話分局・主要軍需工場・武庫離宮の宮殿および付属建物・湊川神社が焼失した。

この空襲は六月五日の空襲とともに、神戸市に壊滅的な大被害を記録した忘れ難い空襲で、夜空を焦す大火災は遠く大阪、姫路からも眺められたという。空襲警報の解除とともに、大阪府の消防自動車が応援に駆けつけ、地元の消防陣に協力して消火にあたった。

この戦災について防衛本部長山内章は四月一八日の市会において次のように報告している。

三月一七日深夜における敵編隊空襲に因りまして本市の被りました被害は各区に互る広範囲のもので、災害の犠牲となられました市民の死亡者は二、七〇〇余名、重軽傷者八、二〇〇余名、住宅の全焼全壊は実に六万八千余戸、延焼半壊は約六〇〇戸の多きに達し、まことに悲惨なる状況であります。

本市においては前回空襲被害の例にならない、罹災の状態程度により些少でありますが見舞金を贈呈し、また殉職せられました町内会役員に対し、表彰金を贈呈し、幾分でも本市として意の存するところを徹底せしめまして市民達を慰めたいと存じます。

罹災者二三万 この空襲によって死者二、五九八人、負傷者八、五五八人、家屋の全焼全壊六万四、六五三戸、半焼半壊一、〇七五戸。工場全焼全壊八二三、同半焼三二。罹災者二二万六、一〇六人を出したが、このうちもともと多く死傷者を出したのは家屋が密集していた兵庫区の七、四五二人で、林田区の一、五五七人、須磨区の八六〇人、湊東区四三二人、葺合区三九四人の順。罹災者の多かったのも兵庫区の九万四、二〇三人で、林田区の四万三、二二〇人、湊東区の三万五、七二四人で、須磨区の一万七、一六五人、葺合区の一萬三、三六七

第八章 戦 災

人の順であった。この空襲で白川峠の彼方の明石郡伊川谷村布施畑（現・垂水区）にも焼夷弾約五〇〇個が投下されて死者一人、負傷者六人、家屋二二戸を全焼した。

上記のごとく神戸市は一挙に二三万六、〇〇〇余の罹災者を出したわけであるが、この数字は名古屋市が数回の空襲によって出した罹災者数二七万に近く、わずか一回の空襲でかく多数の罹災者を出したのは市民の消火に対する熱意の欠如

第10表 縁故避難者への給与諸物資

(昭和20年3月23日)

警察名 食糧営団 出張所名	計	灘	葦合	三宮	相生橋	菊水橋
		灘	葦合	三宮	相生橋	菊水橋
給与人口	15,039 ^人	1,204	664	956	1,168	2,411
米 穀	27,070.2 ^K	2,167.2	1,195.2	1,720.8	2,102.4	4,339.8
醬 油	7,519 ^石	0.6020	0.3320	0.4780	0.5840	1.205
漬 物	1,503.9 ^匁	120.4	66.4	95.6	116.8	241.1
塩	1,203.12 ^K	96.32	53.12	76.48	93.44	192.88
マ ッ チ	15,039 ^個	1,204	664	956	1,168	2,411
警察署名	湊 川	兵 庫	長 田	林 田	須 磨	垂 水
食糧営団 出張所名	湊 川	兵 庫	長 田	林 田	須 磨	垂 水
給与人口	774 ^人	1,032	2,541	1,811	1,920	558
米 穀	1,393.2 ^K	1,857.6	4,573.8	3,259.8	3,456.0	1,004.4
醬 油	0.3870 ^石	0.5160	1.270	0.9055	0.9600	0.2790
漬 物	77.4 ^匁	103.2	254.1	181.1	192.0	55.8
塩	61.92 ^K	82.56	230.28	144.88	153.60	44.64
マ ッ チ	774 ^個	1,032	2,541	1,811	1,920	558

資料：兵庫縣食糧営団記録

と、逸早き待避によるものであるといった軍人の談話が新聞に載ったが、名古屋の空襲は神風機で知られている三菱航空機工場などに対する爆弾攻撃であったのに対し、神戸の空襲は焼夷弾攻撃であったために被害が大きかったわけである。

神戸市を襲ったB29の機数が他の都市にくらべて著じるしく少なく、東京都の半数以下であるが、東京、名古屋、大阪、神戸と西進するにつれてその機数が少くなっているのは米襲の都度、わが航空部隊、地上部隊の敢闘によって被った航空機の損耗が補充されていないことを物語っているが、この航空機の損耗も間もなく補充されて、五月一四日より三千機以上の多数機による空襲となった。

空襲と治安 昭和一九年七月、本土防衛のため九個師団の動員がおこなわれ、一三都道府県に警備隊が設置されていたが、神戸地区には大阪師管区中部第四、二一九、四、一二五、四、一二六、四、一四八、四、一四九部隊が警備について、戦災後の障害物や危険物の除去、不発弾の処理、道路の啓発作業に当り、戦災後の応急復旧作業はこれらの部隊と警察、警防団の手によって着々とおこなわれ、治安は保たれていた。

罹災者援後対策 警報解除とともに市の防衛本部は、兵庫県その他諸官庁と緊密な連絡をとり、時を移さず罹災者收容所を開設するとともに、一七日午後三時から市庁舎内に全防衛理事を招集して緊急非常対策委員会を開き、最も緊急を要する食料の配給を重点として協議を重ねた結果、三日分の非常配給米につづいて主食料品のほか、副食物としてたくあん・梅干などの応急品に加え、第二日目の一日には鮭、牛肉、昆布、煮豆などの缶詰類を收容所・市内縁故先の全罹災者にもれなく配給することとし、市が全市民のために備蓄してい

第八章 戦 災

第11表 罹災者収容状況 (その1)

(3月21日現在)

署 名	計	収 容 所 名	口数	内 訳		
				男	女	幼児
總 計	35,971		35,971	11,036	13,932	10,980
澁	328	振 武 館	25	7	17	1
		福 住 国民 学 校	300	85	120	95
		俾 田 国民 学 校	3	2	1	0
併 合	24	岩 屋 青年 会 館	24	5	13	6
相生橋	3,685	県 立 医 専	574	241	261	72
		八 千 代 劇 場	517	201	206	110
		東 川 崎 国民 学 校	154	67	62	25
		祝 和 高 等 女 学 校	530	169	236	125
		教 秀 寺	299	106	111	82
		航 空 機 学 校	1,611	681	720	210
湊 川	19,395	大 開 国民 学 校	7,200	1,850	2,530	2,820
		中 道 国民 学 校	6,170	1,720	2,050	2,400
		第 1 神 港 商 業 学 校	1,720	400	590	730
		川 池 国民 学 校	1,380	300	450	630
		市 立 第 1 高 等 女 学 校	650	260	180	210
		松 竹 座	1,990	620	720	650
		大 井 祭 儀 場	192	40	62	90
		兵 庫 西 国民 学 校	40	8	12	20
		聚 楽 堂 館	31	12	11	8
		森 高 等 女 学 校	22	5	9	8
菊水橋	1,522	湊 山 国民 学 校	358	122	146	90
		菊 水 国民 学 校	138	53	60	25
		鴨 越 国民 学 校	372	107	140	125
		祇 園 神 社	77	23	37	17
		祥 福 寺	206	52	87	67
		東 福 寺	371	141	165	65
兵 庫	4,130	吉 川 国民 学 校	1,168	400	412	356
		浜 山 国民 学 校	166	70	59	37
		道 場 国民 学 校	900	350	400	150
		入 江 国民 学 校	276	113	118	91

た一カ月分の食料品をこの際、罹災者・非罹災者を問わず、全家庭に配給することなどを決定、食糧営団の手を通じ市民に非常配給した。

この空費で縁故先へ身を寄せていた避難者数は一万五、〇三九人で、三月三日の県食糧営団の配給報告書によると、米穀・醤油・漬物・塩・マッチなどが配給されている。(第10表参照)

第四節 空襲記録

署名	計	収容所名	員数	内訳		
				男	女	幼児
兵庫		兵庫 駅	400	150	180	70
		中之島 市場	1,220	422	543	255
長田	1,427	県立第2中学校	426	147	187	91
		県立第2高等女学校	450	148	211	91
		西野幼稚園	30	6	11	13
		村野工業学校	341	107	89	145
		池田国民学校	180	69	73	38
林田	2,577	運池国民学校	343	90	168	85
		神楽国民学校	340	130	140	70
		千歳国民学校	350	140	179	31
		長楽国民学校	454	161	231	62
		真陽国民学校	201	83	102	16
		志里池国民学校	460	155	245	60
		真野国民学校	351	149	164	38
須磨	923	大黒国民学校	200	63	78	59
		西須磨国民学校	29	8	10	11
		東須磨国民学校	119	33	48	38
		滝川中学校	500	158	200	142
		南須磨国民学校	75	25	31	19
三宮	1,959	二宮国民学校	887	288	342	257
		内政部長官舎跡	5	1	3	1
		礎上8丁目松屋商店	33	10	5	18
		南里商會	14	6	1	7
		西徳寺	25	9	9	7
		琴緒町省線高架下	33	11	16	6
		浄徳寺	39	13	19	7
		三宮駅前省線高架下	13	4	7	2
		厚生道場	26	4	5	27
		山内説教所	33	11	7	15
		小野橋国民学校	851	208	312	331

罹災者の収容所 罹災者のうち、落着き先のない人達のために市は最寄りの学校、寺院、劇場その他焼け残った建物を収容所にあて、三万五、九七一人の罹災者を収容した。開設した収容所名・員数は第11表の通りである。

その後これら罹災者も落付先を得てそれぞれ退所し三月二十七日現在では、二、五一三人に減っている。(第

第12表 罹災者収容状況（その2）

(20.3.27現在兵庫県食糧団調)

署名	計	収容所名	員数
総計	2,513		2,513
三宮	485	二宮国民学校	30
		小野柄 "	455
相生橋	151	県立医専県立航空工業	75
		親和高等女学校	76
湊川	1,447	川池国民学校	390
		中道 "	159
		大開 "	898
菊水橋	55	湊山 "	55
兵庫	148	道場 "	148
林田	140	真野 "	140
須磨	87	大岡 "	87

資料：兵庫県食糧管理記録

第13表 罹災者証明書発行数（旧市内）

(兵庫県食糧管理団調)

発行署名	合計	灘	葦合	相生橋	湊川
発行数	167,163	4,307	793	8,500	35,000
発行署名	合計	三宮	須磨	林田	長田
発行数	45,970	33,000	1,753	1,215	29,120

12表参照)。

罹災者証明書

この空襲で沢山の罹災者を出したが、当時市内の各

警察署で発給した罹災者証明書の発行枚数は一六万七、二六三枚であった。罹災者に対する証明書は所轄警察署または罹災者収容所および省線三宮、神戸、兵庫、須磨の各駅、阪神、阪急の各三宮駅、神有湊川駅、阪神国道石屋川停留所、明神国道一谷停留所に急設された罹災者相談所で発給されていたが、これを迎じてその罹災

者数を各警察署別に見ると、市内一〇署のうち菊水橋署の四万五、九七〇枚がもつとも多く、一番少ないのは葺合署の七九三枚であった。(第13表参照)

空襲直後の食糧事情 三月一七日の大空襲で神戸市の西半分はほとんど灰燼に帰したが、大方の食糧倉庫が類焼を免がれたことは不幸中の幸いであった。罹災者に対する焚出し給食は、県市当局および食糧営団の幹部の臨機の処置によって万全の措置が講ぜられ、一七日朝食は乾パンが配給され、午後から焚出し給食がおこなわれた。野菜は県農会支部から県下の農家に同情出荷を呼びかけたので、明石・掛保・美彌・加古の各郡からの出荷を皮切りに、県下および徳島県から続々入荷し、食糧に対する心配は全くなかった。緑故先をたどって疎開する罹災者には五日分の罹災者用給与票を支給し、罹災証明書によって鉄道、船舶による無賃輸送(手荷物二個までの)の方法が採られ、戦時災害保護法にもとづいて戦災給与金が支給された。

空襲後の市内状況 市内の復旧状況は前日来出動していた軍隊によって道路啓開作業が続けられ、専門工作隊の徹竹作業によって電信・電話の復旧も着々とすすみ、一八日午前中に東半分には早くも電灯がとまり、ラジオから市民に呼びかけた。着のみ着のままで遁れた人達に一番よろこばれたのは田舎に疎開した衣料が役に立ったことである。

神戸市では五大市にさきがけて一九年一〇月から全市民の衣料疎開に着手したのだが、当時は成績が悪く、一旦市役所の窓口に疎開を申込んだものの中にも集荷発送の真際になって寄託を拒むものもあった。しかし二〇年に入ってから空襲状況および市当局の熱意が実を結び、三月半ばまでに市で扱った分だけでも三、三

三四行李に達し、これらは早速県下三郡に送り出されて保管されていたのだ。その疎開衣類が一八日から二二日までには家庭に送り届けられたので罹災者は大よこび、この日に備えた市当局の事前処置にしみじみ感謝した。

さらに一週間後の三月二四日現在における復旧状態について神戸新聞は大要次のように報じている。

罹災者に対する焚出し給食は引続き順調におこなわれ、非常対策も市内一部を残して各区役所の手に移されてはほ二段落をつけ、二四日までに収容所から縁故先に避難する者には従来通り五分分の米塩などの食糧を給与し、二五日以後に収容所から地方縁故先をたどってゆく者には途中所要の乾パンが支給される一方、一般市民に対する米の配給は応急的に五分分の配給で賄ったところもあったが、米の操作も落付いて来たので、平常通り一五日の配給に復し、副食品は淡路・明石方面から蔬菜、徳島方面から漬物などが続々入荷しつるので食糧についての心配はなくなった。

交通機関の損失 市電は空襲によって全線運転不能に陥ったが、翌一八日加納町―將軍通間が復旧し、二

三日尻池―板宿間、二四日夕刻から大橋町―須磨間が復旧、四月三日阪神前―栄町三丁目間の復旧を最後に、ようやく全線運転に復した。この空襲で市電長田車輛工場の全焼と路線上の車輛の焼失で計二九輛（全焼二三・半焼六）を失った。

二〇年三月二四日の朝日新聞は交通機関などの復旧状況について次のように報じている。

市バス 損害軽微で、バス・トラックを動員して、三宮―海岸線―神戸駅前―中之島―東尻池―山手―県庁裏―三宮、東尻池―中之島―笠松―金平町―東尻池の三系統の循環路線と東尻池―須磨間を折返し運転、午前八時から午後五時まで、何れも罹災者専用（無賃）で運転して市民の足を助けた。

電燈 一般市民に対する電灯線は市内東部は九〇%、西部は七〇%がすでに送電を開始しているが、資材関係で全般的にはまだ若干の日数を要する。

水道 主要幹線の修理は半数以上を終り、新生田川以東および中部山手方面は復旧し給水している。

林田・須磨地区には全般的に給水が止っていたが、学徒五〇名、警防団員三〇

〇名を動員して焼跡の漏水防止作業を続けている。

ガス 三月二十八日ごろ全般に供給できる見込み。

罹災者輸送特別取扱 罹災者輸送については特別措置がとられ、省線、私鉄とも市、区長、警察署長、罹災者収容所責任者の発行した罹災者証明書によって無賃乗車取扱を開始し、焼跡整理のため旧居住地に往復する罹災者のために一時閘内内の距離より往復する場合、罹災者乗車整理票を発行して無賃乗車の特別取扱いをおこなった。また疎開希望者に対しては市で疎開先を斡旋、県下養父郡、朝来郡などに疎開させた。

空襲下の勤労状況 空襲によって軍需生産力はいちじるしく低下し、計画生産に大支障をきたしたが、被災工場・事業場の従業員の出勤率は、戦災直後は二〇%〜三〇%、平静に復した時によやく平均六〇%となった。被害をうけなかった工場においても従業員の

罹災・傷害などで出勤率は低く、空襲数日後の川崎・三菱両造船所の出勤率は第14表の通りである。

第14表 空襲と出勤率 (昭和20.3.25現在)

工場名	人員数	出勤人員	罹災者数	出勤率
川崎造船所	26,000	13,300	390	51
三菱造船所	19,800	8,700	4,000	44

資料：兵庫県食糧管理関係書類

銀行預金認定で代払い 神戸市中銀行の各本支店では一七日、日銀神戸支店に参集、金融非常対策を協議した結果、罹災者のために預金の便宜代払いを実施することになった。罹災者は避難先その他この銀行でも銀行自体が罹災者と認定すれば便宜代払いをおこない、信託も期限前支払をする、ただ通帳を持参することが必要で、印鑑がなければ捺印でもよい。なお市内の母店銀行は全部無事、支店に多少の被害があった程度で、市内の金融は微動だにせず、手形交換所も一七日だけ休業、一九日の月曜日から開業した。

陛下の戦災地巡幸と侍従御差遣 天皇陛下は三月一八日、帝都の戦災地を巡幸、三月二〇日の空襲の罹災者達をお見舞になったが、兵庫県には三月二九日永積(寅彦)侍従を差遣された。永積侍従は兵庫県庁および神戸市役所において聖旨を伝達、焦土と化した市内の戦災地を視察して帰京した。

神戸市内の防衛部隊 神戸市には実戦部隊(陸軍・海軍)のほかに兵庫県下特設警備司令部(第一警備司令部—司令官少将)が置かれており、神戸区下山手通六丁目六五(現生田区)神戸基督教会内に司令部と中部第四一—九部隊の本部があり、次の部隊が市内各所に分散して神戸の警備にあたった。このほか川崎・三菱両造船所には海軍部隊、税関には「曙部隊・海軍」が配置されていた。

○特設警備第一五三大隊(中部第四一二五部隊)は神戸区山本通四丁目神港中学校・六甲・雲中・諏訪山各国民学校・海外移住教養所内

○特設警備第一五四大隊(中部第四二二六部隊)は林田区寺池町一丁目 県立神戸第二中学校・真陽・大黒各国民学校
○第一〇七特設警備工兵隊(中部第四一四八部隊)は葦合区野崎通一丁目 元神戸市青年道場に第三中隊武庫郡魚崎町

私立灘中学校内

- 第一〇八特別警備工兵隊（中部第四一四九部隊）は林田区池田村、県立第三中学校・板宿・東須磨・垂水各国民学校内
 - 特設陸上勤務第一〇二中隊（中部軍第八八七五部隊）は淡東区楠町五丁目、淡川国民学校内
 - 特設水上勤務第一〇八中隊（中部軍第八八九五部隊）は神戸区下山手通七丁目下山手国民学校内
- 実戦部隊については税関構内の海軍防備隊以外はわからない。

罹災新聞社市役所内に移る　三月一七日の大空襲で、神戸新聞社をはじめ朝日新聞神戸支局、大阪新聞・産業経済新聞神戸支社が焼失し、六月五日の大空襲で毎日新聞神戸支局が焼失した。市はこれら新聞社の要請によって、報道機関の仮事務所を一時市役所内に開設することを許可したので、これら罹災報道機関はすべて市役所に集った。

それぞれ社旗を壁に貼り、その社の所在を表わしていたのも罹災直後の一情景であった。

なお、神戸新聞は社屋と印刷施設のすべてを焼失、印刷不能に陥ちしたが、朝日新聞が代って印刷を引き受けたため一日も休刊することなく発行はつづけられた。

小、中学校の授業停止　一七日の大空襲の翌一八日、少数機と一九日、グラマンF6F戦闘機の一群約四

〇機が三波にわかれて市の上空に侵入し、在港の艦船、陸上施設、建造物に小型爆弾を投じ、機銃射撃をおこなったが、対空砲火によって約一〇機が被害をうけて、南方に脱去した。この日の空襲は艦船のほか被害は軽微であったが、三菱造船所に駐留の海軍兵員に死傷者を出した。またこの日、四国航路の関西汽船の旅客船お

とわ丸（九〇〇）が、洲本沖で艦載機の機銃掃射をうけて、死者三人、負傷者八人を出した。こうした連日の空襲激化のため、県は本省の指令によって三月一九日、神戸市内の諸学校（中学、国民学校）に当分の間授業の停止を命じた。このほか三月に九回の少数機の空襲があり、一八、一九の両日には延べ二、五〇〇機が阪神間、四国その他各地に行動して被害を与えた。

三月一七日の空襲に際し市役所の本庁舎を火から守って敢闘した宿直員に市長から表彰状が贈られたが、当夜の模様につき馬場淳心（当時総務部文書課員）は次の通り語っている。

三月一七日の夜は三〇人位で宿直していたところ、午前一時前に警報が出たので、屋上警備班であった私は五、六人で新館屋上の警備についた。当時新館の屋上には用品倉庫があって、用紙や事務用品といった燃えやすい物が納められていたが、建物は簡易建築で火に弱く、これを守り抜くことが屋上班の任務であった。屋上には退避舎はあったが、空襲の恐ろしさを体験していなかったので、皆で用品倉庫の周辺に待機した。南方より侵入した一番機が須磨、元町、錨山、灘付近に投じた照明弾で神戸全市はさながら真昼のようになったところへ、B 29 が殺到して周辺部から中心部に焼夷弾の雨を降らせた。このため全市はたちまち猛炎につつまれてしまった。この夜は北風が強く吹き、霞をとともう寒さで、福原辺に竜巻きがおこった。湊川神社の火の粉が神戸地方裁判所の建物を越して、北側の民家からも径五、六寸位の火の塊まわりや、火のついた木片が盛んに飛んできた。

市庁舎には幸い焼夷弾は落ちなかったが、この火の塊まわりが屋上に火溜りとなって危ぶなかった。屋上に

いて蒸し焼になるかと思うほどの熱気で、青苔の生えた水槽の水を飲み、その水を浴びてとにかく用品倉庫を守り通して六時ごろ下に降りた。

市役所の前には一〇名ばかりの兵隊が着剣して警備についているのを薄明の中に見た。この夜の宿直員の一人が大火傷を負うたほかは無事であった。一〇時ごろようやく交代が来て家に帰った。

市庁舎を宿直員の敢闘によって火から守りぬいたことを賞されて、市長から宿直員一同に表彰状を頂いた話を後で聞いた。

また猛火の中に御真影を死守して市長の表彰を受けた山道光彦（当時総務局秘書課主事）の談

三月一七日の大空襲の夜、私は宿直であった。当時市役所には明治・大正・今上各両陛下の御真影が下賜されていた。今の時世と違って、もっとも大切に取扱われていた時代で、空襲の激化につれて危急の場合は私立山手高等女学校（現神戶山手学園）を移送安置場所と定められ、その取扱いは秘書課の担当事務であった。三月一七日夜半警報が発令されたので一旦地階の防衛室に退避したが、様子がおかしいので外に出て見ると街はすでに火炎につつまれ、市庁舎にも盛んに火の粉が飛んでくる、市庁舎の延焼も考えられるので、私は四人で一班をつくり、宿直室に安置してあった御真影を護って火の粉を浴びながら山手高女へと道をとった。飛行機の爆音を聞いては避け、また走った。なんども防火用水の水を飲んでほていをいやして走った。路上は火に追われる避難者の群れであふれて山手高女に行けそうもないので、諏訪山動物園から裏山へ途をとることとした。街にはすでに軍隊が出て警備にあたり、市民に避難の方向を教えていた。私は諏訪山付近

で警備中の隊長に「御真影を護つて退避中であるが」と護衛を頼んだところ、兵二名を護衛につけてくれたことはうれしかった。私達は焼夷弾を避けつつ、ようやく諏訪山の金星台の国旗掲揚塔の下に御真影を安置することができ、心にゆとりもできたので、眼下を見ると神戸の街はすでに火の海で凄惨なものであった。私役所のことか気がかかるので、後を一行に頼んで、余燼くすぶる中を本庁へと急いだ。周辺の建物には戦火にかかっているのに市庁舎は安泰であった。庭や廊下は水浸しであったのは、当夜の宿直員の防火活動によって本庁を類焼からまもったことを物語るものであった。最安全地と考えられていた山手高女は多数の焼夷弾をうけて、一七日未明焼失していた。野田市長は宿直の職員に表彰状を贈って、その殊勲を賞し、私もその一員として表彰状を頂いた。

空襲続く 四月には六回小敵機による空襲があった。四月一日、篠山付近より南下したB29一機が午前五時三五分警報発令とほとんど同時に、突如背山の稜線上に現われ、低空で中之島付近、三菱造船所付近、兵庫突堤付近に中型爆弾を投下、一〇分余にして海上に去ったが、背山方面からの空襲ははじめてで、商船および路面電車軌道その他に小被害があった。

四月二日には朝と午後の二回空襲があり、午後〇時三五分、B29一機が海岸沿いに侵入し、兵庫区吉田町、御崎町、三菱造船所、林田区長田神社付近、村野工業学校付近に中型爆弾一八個を投じ、死者三七、負傷者一四七人、家屋全壊一二五、半壊一六四戸、罹災者一、三九五人を出した。また四月三〇日には川崎造船所、兵庫突堤付近が爆撃され、川崎、三菱両造船所を中心に付近の軍需施設に対し少数機による空襲がしきりにおこ

なわれた。五月三日夜半にはB 29一〇機が侵入して海面に機雷を投下、三菱造船所構内にも落下傘付機雷一個が落とされたが事なきを得た。

七 川西航空機の空襲 — 二〇年五月二一日 —

五月二一日午前五時三七分、警戒警報が発令され、ラジオは早朝から本土に接近しつつあるB 29の行動について、詳報し「阪神方面は嚴重なる警戒を要す」と刻々の情報をくり返し放送していたが、八時四〇分、空襲警報が発令され、箕島附近に集結中のB 29、八〇機のうち六〇機が十数編隊にわかれて神戸に侵入、東部の灘区―徳井・篠原中・南町・中郷・記田・東明・岩屋・烏帽子町・泉・大内・岸地・神木・灘南・北通・將軍通および当時市外であった隣接の武庫郡御影町・魚崎町・住吉村・木庄村・木山村（現・東灘区）を猛爆、一〇時三〇分熊野灘から南方へ脱去した。空襲時間二時間三五分。

一トン爆弾で猛爆

この日の空襲目標は武庫郡木庄村青木にある「川西航空機甲南製作所」（神武秋津社・第二工作所―同營第二軍需工場―新明和興業）（戦後―新明和工業）で同製作所および周辺に一トン爆弾を使って

精密爆撃を加えた。これがため木庄村の被害はもつとも大きく、本山・住吉・魚崎・御影も大被害をうけた。この日の投弾数については記録を欠くが、川西航空機甲南製作所に大小約二七〇個の爆弾痕が確認されている。このため中央工場地帯は完全に破壊され、三六人乗りの大飛行艇を三縦列に組立てができる巨大な組立工場ほか諸工場も完全に破壊されて、鉄骨ばかりが醜く猛撃の跡を物語っていた。工場坪数二万九、〇七八坪のう

材によって生産に入った。



東洋一を誇っていた川西航空機の36人
 乗り3機縦列の組立工場被爆後の惨状
 (朝日新聞社提供)

隣接の海技専門学校(もとの官立神戸高等商船学校)も、三〇余個の爆弾で施設のほとんどを破壊され、さらに八月六日の焼夷弾攻撃によって全施設(延四、二五三坪)を灰燼に帰した。このほか日東航空機工場、住友金属工業およびその他協力諸工場も爆撃され、本庄村の民家は爆弾と爆風によって吹っ飛び、頑丈な護岸堤も川西製作所の外れ弾で破壊、一トン爆弾のすごさをまざまざと見せつけられたが、組立工場の床面、滑走路は重裝備が施されていたので、わずかに弾痕が見られる程度で一トン爆弾でも穴を穿つことはできなかった。魚崎町横屋字川井にも大埋弾による死者六〇人、重軽傷者二三人を出したが、この爆弾の地下から衝撃あがるよ

ち、八割が破壊され、死者一三八人、重傷者一二六人を出した。このため操業は一カ月間停止を余儀なくされたが、この空襲は別項次ページ「空襲ごぼれ話」にある事情で事前には完全に疎開し終った直後だったため、被害を最小限に食いとめることができ、操業再開も早く疎開した資

うな物凄い地響きは阪神電鉄の三宮駅地下ホーム、市庁舎地階などにも強く伝わって退避者を驚ろかせた。省線・阪神・阪急・国道電車の沿線も爆撃されて不通となり、特に国道沿線には避難者・罹災者の群れが東へ東へとつづいた。

死者と損害 この空襲で灘区役所は直撃弾をうけ、庁舎および保存書類を焼失、三三人の殉職者を出した。灘区の死者三一八人、負傷者五三三人、建物の全焼・全壊一、二五三戸、半焼・半壊一、三二六戸、罹災者

九、五三三人を出し、東部五カ町村の被害は川西航空機の所在地本庄村の被害がもっとも大きく、死者三七三人、重傷者一二六人（軽傷者数を欠く）、家屋の全壊九八三戸、半壊一六六戸、罹災者八、七〇五人をかぞえ、御影町は死者二二人、負傷者一八一人、本山村は死者一三〇人、負傷者六一人、魚崎町は死者六〇人、負傷者二三人、（住居死傷者なし）を出した。

本庄村は爆弾・爆風によって飛散した建物の廃材が道路を塞いでいたが、第一〇七特設警備工兵隊（中部第四一四八部隊）の手によって取り除かれ、主要道路も啓発され、不発弾などの危険物も工兵隊の手によって処理されたので、その後の作業は目に見えて進捗、爆風で倒壊した家の跡片付は警察と警防団の手によって行なわれた。三時頃から雨となったが、作業は雨中につづけられ、負傷者が担架でつづつぎに運ばれていった。

女子薬学生の救護活動 この日、神戸女子薬学専門学校（現在神戸女子薬科大学）の救護隊は医療隊・担架隊を編成、七〇の担架を血に染めながら負傷者の救護にあたり、三キロを往復して重傷者を学校に収容、かがいしき働きをみせた。爆弾で飛散した犠牲者の一片の肉塊・手足までもていねいに拾いまわっていたが、こ

のうら若き女子学生の活躍ぶりは今日なお佳話として語り伝えられている。

空襲ごぼれ話　五月五日午後一時、B29六機が神戸地区に侵入して機雷を投じたが、そのうちの一機が撃墜され、落下傘をつけた飛行士の死体が本庄村海岸に漂着した。持っていた航空写真には攻撃目標物・攻撃の予定日・目的物付近の目印、ボタンを押す位置などが記入してあった。それによると、川西航空機甲南工場は五月一日にマークされており、近くにある森の稲荷神社の大鳥居が注意の目じるしにしてあった。これによって同工場の空襲日がわかったので、大急ぎで重要書類・主要資材その他を四日間にあわため疎開し終り、一日の空襲を迎えたのであった。わが国の軍需産業の現状がかく正確に探知されていた点は先の川崎航空機明石工場の場合とともに世人の目をみはらせた。この時の疎開物資のうち、ジュラルミン約一〇〇トンは神戸松蔭高等女学校に疎開していたが、終戦後、この資材は払下げられて元町通り商店街の復興資材に活用されて、元町ジュラルミン街として街を明粧する資材となった。

棺桶のおもいで　当時本庄村の庶務課長だった太田垣正雄元助役はその時の状況を次のように語っている。

当時本庄村には川西航空機甲南製作所があり、日東航空機、住友金属工業をはじめ下請け工場が沢山あるので、爆撃される公算が大きかったので、消火用貯水施設や防空壕の整備強化、空襲時における戦傷病者の救護、医薬品、備蓄食糧などについて県の指示によって応急対策を立てていたが、このうちの一つ欠けているものに気付いた。それは多くの死者を出した場合の対策として、棺桶を出来るだけ準備して置かねばなら

ぬと考え、県に交渉して材料の板をできるだけ手広く集めた。

このため本庄村の犠牲者四三六の遺体は全部納棺、処理することができた。その第一回は五月二一日の大空襲で、三七三人の死者を出したが、当時はダンボールの棺桶や、襷包みなどで火葬しているところが多かったので遺族から非常によろこんでもらった。

しかし一時にでた沢山の死体を焼く施設がないので、森の稻荷神社上の山の中（現在の東灘区本山町森庄野町）で焼くことにしたが、三キロの道を迎ぶ車がないのでやむを得ず消防自動車で運んだが、ガソリンの補給がつかず、五〇体で打ち切り、あとは現地で火葬に付することにし、そしてそれぞれの会社に交渉したが「やがて立ち上らねばならぬ工場を火葬場にすることだけはどうかカンベンねがいたい」と断われ、やむなく役場の裏の空地を臨時火葬場として、一度に五〇体ずつ並らべ、白いタイルや瀬戸物の破片に氏名を記して、その前に置いて遺体の標識とし、爆撃で壊れた家の廃材を積み重ねて棺桶を並らべたうえにさらに屍材を積み、川西航空機から重油をもらって火葬にした。そして遺骨は家族、または会社の責任者に渡し、引取り手のない二三体の遺骨は長く役場の二階に安置していたが、後に無縁墓に納骨した。当時は人手不足で遺体の処置は役場の吏員、警防団員、それに業者一人を加えてすべてを処理した。

機雷投下盛んとなる　五月には一日の大空襲と合せて一三回の空襲があり、またこの月より機雷の投下が

がようやくはげしくなった。五月五日、B 29 六機によって和田岬―須磨―明石―飾磨―洲本を結ぶ海面に機雷投下、大阪湾、紀淡海峡、瀬戸内海、豊後水道にわたって頻繁に機雷を敷設して海上交通の遮断をねらい、西日

本海にも機雷を投じて船舶による朝鮮の穀物輸送を阻むにいたった。五月二五日、淡川神社祭礼の当日にはB29一機が神戸市上空に侵入し、爆弾ならぬ紙弾（伝單）を投じた。伝單の撒布は二・三回あったが、軍は管下の全警察署に指令して、アメリカ空軍の投下する物品や伝單の散逸の防止、収集にあたらせて国民、

日本の皆様

私は本日ここに拝見するに、日本の皆様、どうか御注意を致して下さい。私は先般、五月二五日、淡川神社祭礼の当日、神戸市上空に侵入したB29一機が、紙弾（伝單）を投じた。この紙弾は、アメリカ空軍の投下する物品や伝單の散逸の防止、収集にあたらせて国民、目的ではない。しかし日本の軍閥を無力にするには軍需工場をみな破壊しなければならず、できるだけ軍事施設のみを破壊する。……軍閥が始めた戦争の後始末は米国がする。念のためにもう一度忠告する。軍事施設に近寄るな。」というものであった。掲載の写真は八月一三日に撒かれたもので、わが国のポツダム宣言の受諾を報じたものであった。

ポツダム宣言の受諾を伝えたアメリカ軍伝單

の所持を禁じ、米軍の謀略
 宣伝にまどわされぬよう、流
 言浮説、危険防止につとめて
 いた。また米空軍の投下物に
 よつて不測の傷害をうけない
 よう警告し、新聞にも広告し
 て国民の注意を促した。

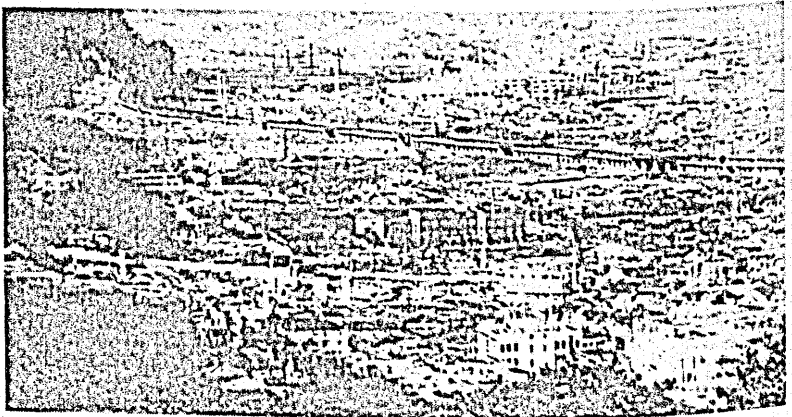
伝單の内容は日本文で「工
 場・軍事施設・発電所・鉄道
 ・停車場などに絶対近寄る
 な、人民を害するのが米国の

八 神戸白昼の大空襲 —— 昭和二〇年六月五日 ——

アメリカ軍の本土爆撃はいよいよ新たな段階に入り、米襲機数も目立って多くなり、その行動範囲もまた広くなった。五月二九日にB 29、艦載機計六〇〇機が横浜を、六月一日にはB 29四〇〇機が大坂に空襲し、その機数の多いのに驚いたが、六月五日、B 29三五〇機の大編隊が神戸を中心に阪神間に米襲した。

三五〇機で猛爆撃 この日の空襲は三月一七日の大空襲をはるかに越え、米襲機数も六倍に近い三五〇機を数え、二〇数編隊で米襲、西は垂水地区から東は西宮地区と行動範囲もまた非常に広く、大量の焼夷弾、中小爆弾をもって執拗に絨氈爆撃をおこなった。このため全市はたちまち黒煙、猛焰に掩われ、ラジオは止り、水道も断水してしまった。二〇機、三〇機と米襲ごとにごうぜんたる爆音とともに猛煙があがり、火焰旋風が渦巻いて火気と煙に息もできないほど物凄いものであった。市内では三月一七日の空襲で戦火を免れた地区も葦合区・生田区・灘区・須磨区の順に大被害をうけ、兵庫区・長田区にもかなりの被害があった。生田区の栄町、旧居留地のビジネスセンター・元町・三宮一带の商店街から、東は御影町・住吉村、西は須磨・垂水（一部）におよび、背山にも沢山の投弾があり、六甲山頂にも爆弾十数個（判明分）、焼夷弾三千個以上が落ちたが、幸い草崩えで山火事にならず、住宅七戸（六甲村篠原三戸、有野村唐櫃四戸）を焼き、死者・負傷者各一名を出したに止った。

この日は五月晴れのよい天気だったが、神戸税関の屋上から望む神戸の街は黒煙もうもう、天日ために暗く



**神戸へB29三百五十
六割、二百機を墜る**

御影、芦屋、西宮にも火災

（神戸新聞提供）

神戸市は、昨夜（6月5日）深夜、空襲を受け、市内の焼跡は、生田区北野浄水場より葺合区方面を望む。空襲は、朝日新聞の記事によると、B29、350機の来襲を報じた。朝日新聞の記事によると、下の雲は高射砲弾によるもの

目と鼻の距離にある高架線（省線）以南がぼんやり見える程度で、高架線以北は黒煙に覆われて裏山は全く見えなかった。その黒煙の中に一羽の鳩が（伝書鳩参照）煙にもまれているさまが特に印象的であったと神戸税関の徳村浩志課長補佐は語っている。

この日、六甲山頂（当時三二〇世帯・人口四〇八人）では、防空壕の近くで傷いて倒れた人を確認するのに家から懐中電灯を持って、来

てはじめてその誰れであるかを知ったほどで、山上の人々はアメリカ軍が煙幕をはったのかと勘ちがいし、有馬町では救護活動に白昼提灯をつけて歩いたという。もってこの日の物凄い黒煙の一半を知ることができよう。

被害地区 この空襲は全市におよんだが各区の戦災地区は大体次のようになる。

灘区—京阪神急行以南、石屋川以西（新在家町一〜二丁目、味泥・岩屋町以南の海岸線を除く）は三月一七・五月二一日とこの空襲でそのほとんどを焼失、阪急以北は青谷・王子・富山町、五毛・葉師・国玉・赤坂・上野通。

許合区—三月一七日の空襲でその四分の一弱、この日の空襲で残りの全部焼失。

生田区—北野町、山本通（一部を除く）より海岸通一帯、諏訪山下より花隈町、三月一七日とこの空襲でそのほとんどを焼失。

長田区・兵庫区—小区域

須磨区—平田・大黒・茂・大田・吉田・長池・堀内・戸政・下堀内・西寺田・上・下中島・須磨南・松尾・上・下手崎
・若宮・鷹取・衣掛・磯馴町

東部では御影・住吉・魚崎・本山・本庄の五カ町村（現在の東灘区）、西部では明石郡伊川谷村（現在の垂水区）芦屋・西宮市など被害は広範囲に及んだ。

焼失した主な建物 この空襲で生田・長田・須磨の各区役所が焼失（これで神戸市の区役所は全部戦火に罹り、住吉村役場も被弾全焼）、市長公舎、布引市立美術館なども焼失した。そのほか官公舎、銀行、会社、工場住宅などの焼失も非常に多く、鉄道省高取工場、灘の銘酒の蔵元なども多く焼失、生田神社ほか諸社、寺院。

などの多くが炎上、中央電話局の市外局が焼失したため市外との連絡は全く断たれてしまったが、この状況は大阪府警察部の伝書鳩によって、大阪府庁に伝えられ、時を移さず政府ならびに、報道機関に伝えられた（別稿伝書鳩の項参照）

投下弾三、〇〇〇トン　この日の投下弾は一〇〇ポンド、七〇ポンド、六ポンド油脂焼夷弾、四ポンド、エレクトロン焼夷弾および中・小型爆弾で、アメリカ側の発表によると、この日約三、〇〇〇トンの焼夷弾を神戸地区に投じたとある。またこの日は大型油脂焼夷弾が非常に多かった。三月一〇日の東京大空襲の投下量が一、六六七トン（主として焼夷弾）であったのに較べて、約二倍の焼夷弾が投下されたわけである。いかにその日の空襲が大規模だったかが想像されよう。

人的被害　この日の旧市内の死者三、一八四人・重傷一、九二六人・軽傷三、八九八人・建物全焼全壊五万五、三六八戸、罹災者二一万三、〇三三人を出した。人的、物的とも神戸市最大のもので、死者は三月一七日の空襲よりも約六〇〇人多く、最も多く死者を出したのは葎合区の一、〇四一人、生田区八一五人、須磨区の七二〇人であった。

御影・住吉・魚崎・木山・木庄の五カ町村では死者計二六九人、負傷者六〇七人（木庄村は病院、施設に収容した者一八人で軽傷者数を欠く）を出し、六甲山（東部）には大山火事があった。

明石郡伊川谷村にも焼夷弾・爆弾五〇個が投下されたが被害はなかった。

この空襲の模様を中部軍管区司令部は次のように発表（六月五日一〇時）した。

一、南方基地のB29約三五〇機は六月五日午前六時頃より紀伊水道南部および土佐東南部において集結後七時より約一〇機および三〇機の編隊をもって紀伊水道を北進、阪神地区に侵入、約二時間半にわたり主として焼夷弾により神戸市および御影町、西宮市、芦屋市付近を攻撃ののち遂に北部地区、奈良、三重県を経て熊野灘より脱出せり。

二、このため神戸市東部および西宮市、芦屋市に火災の発生を見たるも、民防空陣の敢闘により逐次鎮火しつつあり、わが軍の戦果一〇時までには判明せるもの撃墜三〇機以上、撃破六五機以上

この発表にもあるとおり、わが航空部との間に激しい空中戦が市街上空において展開されたが、この日、第七・八突堤砂浜にあった一二センチ高射砲が威力を發揮して戦果をあげた。アメリカ軍の飛行機の損害もまた大きく、再度山北方の山中、山田村、須磨付近、妙法寺川尻、第六突堤、都賀川尻でに撃墜された。

野田市長は五日正午すぎ登庁、罹災者に対する応急措置を協議、市民に対し「災害にめげず、最後の勝利に向って敢闘する」ことを要望した。

空襲直後の交通事情 市民生活に一日も欠くことのできない残された唯一つの市民の足であった市電は、

三月一七日、五月一日、六月五日の大空襲に被害をうけたが、このうち六月五日の被害がもっとも大きく、全線不通、架線のひとつが寸断され、車庫・車両の焼失によって壊滅的な被害をうけたが、即日東尻池―五番町間が復旧した。当時の架線は銅の使用禁止時代で、鋼鉄線が代用されていたため、その復旧を一段と遅らせていたが、軍隊が出勤して架線の修理にあたり、山手線が七月二日に加納町交差点まで開通、平野線が六月

三〇日、加納町三丁目―三宮駅間が七月二十六日、脇浜線が八月一日、市バス（二輛）も加納町三丁目―原田間が開通し、八月一日ようやく五〇%が復旧して終戦を迎えた。

施設および車輛の被害は布引車庫・須磨車庫・運輸事務所を焼失、車輛の全焼九八、半焼一六、保有車輛二八二輛のうち一四三輛を失い、残存車輛も部品の不足による整備不完全で故障続出、ようやく九〇輛を修理し運転していたが、戦後も久しく市民の足をうばっていた。

また、省線は摂津本山―須磨間、阪神電鉄本線は御影以西、阪神国道線は小路以西、京阪神急行は芦屋以西が被害をうけて運転を休止した。

神戸の空襲を速報した伝書鳩　この日の空襲で神戸中央電話局市外局が焼けて市外との連絡は全く断たれた。大阪府では空襲警報が解除されると時をうたさず、中川、小松両警部補に伝書鳩を携えて神戸に急行させた。両警部補は兵庫県庁の屋上から鳩を放ち、神戸市の惨状を伝えた。その第一報は午前九時三十分大阪府庁の屋上に、つづいて第二報・三報・四報がいずれも翼を焦した鳩によってもたらされ、神戸大空襲状況が明らかにされ新聞・ラジオによって全国に報道された。（20・6・6朝日新聞）

各地から救援隊　猛爆後の神戸は全市猛炎・黒煙におおわれ通信は全く杜絶したが、別項のごとく兵庫県庁屋上から放たれた大阪府の伝書鳩によってその惨状が伝えられたので、各地から救援隊が続々と到着した。尼崎に本部をおく阪神警備大隊は西宮署に本部を移し、尼崎・伊丹・宝塚各中隊に緊急出動を命じ、警察官・警備隊・警防団・緊急工作隊・各救護団の医師・看護婦のトラック・食糧トラックが火焰たちこめる県本部に

到着、本部長の指揮をうけて東神戸の戦災地に散開、救援にあたった。また姫路からは姫路署僚警部指揮の中隊と医療救護隊が来援、姫路独立消防中隊からは五台の消防自動車がかつけつけ、それぞれ消火救援に活躍した。当時の救援状況について新聞は次のように伝えている。

黒煙下の神戸に県下各地および大阪から消防車が救援、陸海軍・赤十字のマークをつけたトラックが食糧品を満載し、奔流のように神戸に着いた。去る三月二四日、六月一日の大阪空襲に兵庫県から警備隊・消防隊・医薬品・食糧などをトラック隊に満載し大阪に向った阪神国道を、この日は大阪からお返しに救援だった。ついで大阪府救護隊・防空救護団から八〇名の医師・看護婦・特志志願の医科学生二五名、大阪陸・海軍病院医療班・姫路医療班などが到着、赤十字の旗を先頭に余糧をくぐって負傷者の治療にあたった。また大阪師団司令部からも特設救護班が到着、市内警備の中部軍部隊と協力して道路開通、交通線の確保にあたり、救護隊の一部は御影・芦屋・西宮にわたって力強い救護活動をおこなった。

(20・6・6朝日新聞)

アメリカ空軍の攻撃目標が大都市から中小都市、交通機関などの無差別爆撃に移行、阪神地区では高槻・伊丹・吹田・尼崎・西宮・芦屋・明石・姫路などが空襲され、六月七日と一五日には大阪に大空襲があり、神戸市は六月には一〇回、七月には二〇回の空襲があった。

交通機関では鉄道省鷹取工場、鷹取機関区、七月一九日には東灘貨物駅、臨港線の分岐点などが爆破された。

この間、西部の明石郡玉津村、伊川谷村は神戸市と明石市に最も隣接していた関係で、明石市の川崎航空機明石工場および明石市の空襲(二月一九日、六月二三日、六月二六日、七月六・七日)の余波をうけて玉津村は死者七十七人、負傷者八五人、家屋全壊三八三戸、半焼一七五戸、ほか損傷三〇五戸、罹災者三、六〇八人、伊川谷

村は一月一九日の明石の空襲と三月一七日夜の神戸の大空襲で死者六人、負傷者五人、家屋全焼二二戸・罹災者一三〇人を出した。

二四時間連続爆撃 七月二四日にはB 29・P 51・B 24・グラマンF 6 F計二千機がマリアナ・硫黄島・沖縄の各基地および艦上から飛び立って、浜松以西、大阪、神戸、中国、四国の各都市に従来見なかった大規模にして広範囲な連続波状爆撃をおこなった。この日は従来の間歇的攻撃から二四時間連続空襲の方法をとって破壊より神経戦をねらったものであった。この月、各地に米襲した米機の延機数は二万機に達した。

九 阪神間の夜間大空襲 — 昭和二〇年八月五〜六日 —

八月は終戦の一五日までに大小一二回の空襲があった。八月五日午後九時ごろ土佐沖、熊野灘沖に集結したB 29のうち第三群一三〇機が紀伊水道より数編隊に分れて西宮市に侵入、西宮を中心に尼崎市、芦屋市、東部五カ町村および神戸市の東部、姫路市におよぶ広い地域を長時間にわたって反復大空襲をおこない、焼夷弾（各種）四万個と爆弾を混投した。このため各地に大火災が発生したが、折柄の急雨によって六日払暁ようやく鎮火した。市部の被害は割合に少なく、死者二人、負傷者二九人、家屋の全焼一、〇六三戸、半焼三三戸、罹災者四、〇三九人、東部五カ町村に死者一四四人、負傷者五八四人を出した。

六日にも午前三時ごろB 29数機が飛来、神戸港外に機雷を投下した。このころになると、市民の中には前後四回も罹災したものがあり、終戦まで大小一〇回以上も攻撃を受けた軍需工場もあった。

一〇 最後の空襲 — 二〇年八月一日 —

アメリカ軍の神戸空襲は最後までつづけられ、終戦前日の八月二四日には午前、午後、艦上機約一〇機が神戸に侵入、市内の東部・御影町・住吉村・魚崎町に機銃射撃をおこない、若干の被害があり、翌一五日も三機飛来したが投弾はなかった。

神戸市空襲状況一覽表 (昭和二十七年(一九四二)四月一八日より
昭和二十八年(一九四五)八月二四日まで)

年月日	時刻	機種・数	弾種	数量	死者	負傷者	全焼壊半焼壊	罹災者	場	所
17・4・18 (土) 晴	午後 2・40	ノース・アメリカン	(一) デルミヤロ 二(キロ油) 脂焼夷弾	()	—	(書類焼失のため被害不明)			兵庫区 (西出、島上、鍛冶屋、船大工、 神戸、宮前、川崎町)	
19・12・15 (金) 曇後雨	午前 9・0	B 29	(二)						阪神間一帯	
12・18 (月) 晴れたり曇ったり	午後 1・30	B 29	偵察						神戸市、明石郡玉津村 (現垂水区玉津町) 県下、大阪	

備考
 、、、、カッコ内は資料を欠いて概数も把握しえないもの
 建物被害欄の△印は工場の被害数
 弾種以下は合算数が多い
 *印は米國戰略爆撃調査団報告による

第八章 戦 災

(月) 2 晴 5	晴時々曇 (日) 2 4	(火) 1 曇 23	(土) 1 晴 20	(金) 1 晴 19	(木) 1 晴 18	(土) 1 曇 13	(水) 20 1 3 晴
午後 11 午前 8 4 3 0 30 303030 5	午前 2 午後 9 2 02 2210	午後 1 38	午前 8 0	午後 1 1 5122	午前 10 20	午後 2 1 0	午後 2 3
B 29 —	" " B 29 — 一 登	B 29 完	B 29 一	B 29 登	B 29 —	B 29 B 29 — 一	B 29 —
" 爆 燒 小 夷 災 型 " 彈 彈 彈	爆 爆 燒 爆 線 彈 夷 彈		燒 夷 彈	" 爆 彈	()	偵 察	二・七 七 口 燒 夷 彈
() () () ()	數 若 干 ()		()	五 三 二 三 三 二	()		五 〇
() () () ()			—	五 三 二 三 三 二	()		()
() () () ()					()		()
() () () ()	△ 五 八				()		()
() () () ()	△ 七			二	()		()
() () () ()				()	()		()
港内、兵庫沖合	兵庫区(三菱造船所) 須磨区(板宿) 林田区(西代) 神戸区(税関輸出事務所)	淡東区、兵庫区、林田区、須磨区 川崎重工、新三菱重工、鐘淵炭業 川崎車輛、神戸埠頭、増田製粉 三菱電機 在港艦船 神戸港沖	阪神間	明石方面 阪神間	明石郡玉津、伊川谷村 (現垂水区玉津伊川谷町) 明石市およびその周辺 (川崎航空機明石工場)	市 内	神戸区、淡東区、埠頭、艦船 神戸港第一棧橋

第四節 空襲記録

年月日	時刻	機種・数	弾種	数量	死者	負傷者	全焼壊	半焼壊	罹災者	場	所
(火) 2. 20 曇後 小雪	午前 3. 頃	B 29	一 投弾せず	—	—	—	—	—	—	市内侵入	
(日) 2. 18	午前 1. 頃	B 29	一 投弾	小大 七	—	—	—	少被害	—	姫路方面より侵入 有馬郡長尾村上津、上宅原、下宅原	
(土) 2. 17	午前 12. 8. 6	B 29	二 投弾せず	—	—	—	—	—	—	淡路より市内侵入	
(金) 2. 16	午前 2. 12	B 29	一 爆弾	一〇	()	()	()	()	()	山手方面 武庫郡山田村 (現・兵庫区山田町)	
(金) 2. 9	午後 8. 1. 20 20	B B 29 29	一 投弾	()	()	()	()	()	()	兵庫区(和田岬、同海面、再度山奥、 背山) 垂水区名谷 神戸港沖	
(木) 2. 8	午前 5. 45	B 29	一 爆(三半口)弾	一四六	一三	三四	△一	四四二五	—	苜合区、灘区 (神戸製鋼所付近 筒井校、脇浜、 中島通、宮本通、雲中小学校付近) 有馬郡長尾村	
(水) 曇後雪 2. 7	午前 2. 30	B 29	二 投弾	()	()	()	()	()	()	西北方稗山 神戸港海上	
(火) 2. 6	午後 8. 5 0 10 15 20 27	B B B B 29 29 29 29	一 二 一 一 焼夷 焼夷 爆夷 焼夷 弾 弾 弾 弾	(一四) (二〇) () ()	(一四) () () ()	(三〇) () () ()	(四一) () () ()	(四〇) (二四) () ()	—	灘区、神戸区 (市役所、元町、三越付近) 塚山、摩耶山、三宮 淡東区 南方海上(海外)	

第八章 戦 災

日	時	機	弾	焼	爆	投	偵
(土) 3・17	午前 2・5	B 29 (a) 30	六本、明、 エレクトリック、 機、 弾 (a) 約 50	焼	爆	投	偵
(火) 3・13	午後 11・39	大型機 一三〇		焼	爆	投	偵
(日) 3・11	午前 2・すぎ	B 29 一		焼	爆	投	偵
(水) 3・7	午後 11・すぎ	B 29 一		焼	爆	投	偵
(日) 3・4	午前 0・18	B 29 二		焼	爆	投	偵
(火) 2・27	()	B 29 一		焼	爆	投	偵
(日) 2・25	午後 2・37	B 29 数編隊 (a) 30		焼	爆	投	偵
(金) 2・23	午後 7・30	B 29 一		焼	爆	投	偵
(木) 2・22	午前 9・30	B 29 一		焼	爆	投	偵

灘、葦合、神戸、淡東、淡、兵庫、
林田、須磨各区
明石郡伊川谷村布施畑
(aは神戸区・須磨区の投弾地)

神戸市、
* 神戶市 合計
* 尼崎市

市内

淡路島内
阪神間、一ノ谷より東進

神戸区(元町、大丸付近、居留地)
釜山付近
武庫郡近村

市内

加古郡
林田区、須磨区、
摩耶山北、海面

灘方面近郊

大阪湾

阪神一带

第四節 空襲記録

年月日	時刻	機種・数	弾種	数量	死者	負傷者	全焼壊	半焼壊	罹災者	場所
(火) 4・17 晴	午前 8・9	B 29 一	爆弾	()	()	()	()	()	()	兵庫区 (和川町、同海面)
(水) 4・11 晴	午前 5・35	B 29 数機	中型爆弾	()	()	()	()	()	()	兵庫区 (三菱造船所、中之島付近、兵庫突堤) 市電軌道、ほか新川橋
(月) 4・9 小雨	午後 11・50	大型機 一	投弾せず							市内
(日) 4・1 晴	午後 1・0	B 29 一	投弾	()	()	()	()	()	()	兵庫区 (和川町燈台付近) 同海面
(木) 3・29 曇	午前 暁前	()	()	()	()	()	()	()	()	市内
(水) 3・21 晴	午後 11・58	()	投弾	()	()	()	()	()	()	神戸市北方に投弾
(月) 3・19 晴	午前 7・15	六 F F 約 20	小型爆弾 機銃射撃	()	(B) (x)	()	()	()	()	兵庫区新三菱(陸上施設) (在港船舶) 新港 B・三菱構内駐屯の海軍兵員に死傷あり
(日) 3・18 晴	早朝 ()	六 F F	機銃射撃	()	一	()	()	()	()	市内

第八章 戦 災

日時	(土) 5.12	(金) 5.11	(日) 5.6	(土) 5.5	(金) 5.4	(木) 5.3	(月) 4.30	(日) 4.22
天候	曇雨	曇雨	晴	晴	晴	曇	晴	晴
時刻	午後 0.55	午前 0.15 午前 4.45 午前 8.40	午前 0.05	午後 11.30	午前 8.00 午前 8.27	午後 11.37	午後 0.35	午後 0.40 午前 5.45
機銃	B 29 一	B 29 一 B 29 (七) 〇 B 29 (六) 〇	大型機 六	B 29 六	B B 29 29 七一	B 29 六	B 29 一	B 29 一 B 29 一
弾薬	爆弾	機雷 伝雷 焼夷 散布 雷	機雷	機雷	機雷	機雷 焼夷 雷	爆弾 (三三〇)	中爆弾
機銃	八	三〇〇枚散布	一〇八	()	五	五 二〇	八	一八 一五
機銃	一三	()			()	()	()	三七
機銃	三三	二九一			(三)	三	四	二四七
機銃	二〇	()	帆船一隻沈没		()	()	()	二二五
機銃	五〇	()			()	△	()	一六四
機銃	二八〇	()			()	二	()	一、五五
長田区 (大橋町、尻池地区)	長田区	尼崎・西宮・芦屋市 川西航空、日東航空ほか	神戸と淡路の海岸沖 ()	和田岬↓須磨↓明石↓飾磨沖↓ 洲本を結ぶ海面	兵庫区 (三菱造船所に落下傘付機雷 一ヶ落下) 同海面	須磨区 同海面	兵庫区 (中之島海岸、兵庫突堤付近、 海西) (川崎造船所付近)	林田区 (吉田町、和田宮通) 兵庫区 (笠松通付近、三菱付近、川 崎造船所付近) 長田区 (村野工業学校) 長田神社

第四節 空襲記録

年月日	時刻	機種・数	弾種	数量	死者	負傷者	全焼壊	半焼壊	罹災者	場	所
(木) 5・17 晴後曇	午前 5・28 午後 1・15	B 29 一	爆弾 (二五〇)	六	九	二七	一三	一九	二七九	兵庫区(吉田町、御崎町ほか) 市内東部	
(金) 5・25 晴	午後 0・34	B 29 一	伝單撒布	1,000枚	一	一	一	一	一	市内近郊	
(日) 5・27 晴	午前 11・00 10・40	B 29 各一	投弾	一	一	一	一	一	一	須石灘市区	
(月) 5・28 晴	午前 9・00	B 29 一	被弾遁走	一	一	一	一	一	一		
(災) 6・5 晴 曇ったり 曇ったり	午前 6・0	B 29 三〇	爆弾 流れ弾 数十発	一〇〇、七〇六 三、二八四 五、八四三、三六六 三、一〇三 三六九 六〇七 一〇三	一	一	一	一	一	灘区、苆合区、生田区、兵庫区 長田区、須磨区 武庫郡木田、木山、魚崎、御影 有馬郡山田の各町村 有馬郡伊野村、榎字六甲山 有馬郡有馬町	
(木) 6・7 雨後曇	午前 10・43	B 29 三 四機のうち	投弾	一	一	一	一	一	一	武庫郡魚崎町	
(金) 6・8 曇	午前 7・20	B 29 二	投弾せず	一	一	一	一	一	一	阪市神間内	

第八章 戦 災

(金) 曇後雨 6・29 午前 3過ぎ	(水) 晴 6・27 午後 11後 5・29 46	(火) 晴 6・26 午前 9・51	(金) 晴 6・22 午前 9・7 50・49	(木) 晴 6・21 午後 11・56	(日) 晴 6・17 午後 10・45 <small>晴れたり 曇ったり</small>	(金) 雨 6・15 午前 8・45	(日) 晴 6・10 午前 9・0 頃30	(土) 曇 6・9 午後 1・0 8・32 午前
B 29 ()	B 29 三	B 29 (水機)のうち機一	B 29 約10 (三五〇機の中)	B 29 六	B 29 六	B 29 五梯閉 (三五〇機)のうち	B 29 二	B 29 二
投 弾	機 雷	爆 弾	爆 弾	機 雷	機 雷	投 弾	投 弾	投 弾せず
()	()	()	()	()	三〇	()	()	()
()		四七	()			()	()	()
()		三〇	()			()	()	()
()		三二	()			()	()	()
()		一五六 一五三 ほか	()			()	()	()
()		()	()			()	()	()
神戸、明石、姫路	神戸港、 大阪湾一帯、鳴戸、 紀淡海峡	明石郡玉津村 明石市、大久保方面	明石郡玉津村、伊川谷村 (現垂水区玉津町、伊川谷町) 明石市、姫路方面	神戸港外 大阪湾一帯	神戸港沖 瀬戸内海	近畿一帯(西宮、尼崎、伊丹、芦屋市ほか) 兵庫方面、大石付近、三菱電機など 須磨区(若宮町)	兵庫方面に投弾	市内(武庫郡鳴尾付近) (明石市攻撃機の一部) 明石、神戸近くの区域

第四節 空襲記録

年月日	時刻	機種・数	弾種	数量	死者	負傷者	全焼壊	半焼壊	罹災者	場所
(日) 7.1 雨が降つたりやんだり	11.頃	B 29 二	焼夷弾 機銃射撃	()	一	一	一	一	一	有馬郡有野村有野パンヤ山中 (神鉄五社駅南東二〇〇メートル)
(金) 7.6 曇時雨	午後 11.30	B 29 一 ちのう	焼夷弾	()	四	二〇二八二	一	一	一	有馬郡有野村字西二郎
(土) 7.7 晴れたり曇ったり	午前 0.15	B 29 (一〇機)	焼夷弾	()	二〇二八二	五	()	()	()	明石郡玉津村 明石市
(月) 7.9 晴	午前 11.47	B 29 P 51 四	()	()	()	()	()	()	()	神戸市 西宮 伊丹、大阪ほか
(火) 7.10 晴	午後 1.10	P 51 六	機銃射撃	()	()	()	()	()	()	兵庫区
(木) 7.19 晴	午前 9.45 午後 11.18	P 51 八 B 29 二	爆弾	()	()	()	()	()	()	兵合区東灘駅(貨物駅) 兵合区(小野浜、神戸製鋼、川崎製 兵庫区(三菱造船所) 兵庫区(生田区(税関構外)
(金) 7.20 午後 11.30		大型機三	一	一	二八	二五二〇二八三	一	一	一	神宮戸 西宮 合計

第八章 戦 災

(水) 8.1 午前	(月) 7.30 晴 午前	(土) 7.28 晴 午後	(水) 7.25 曇 午前	(火) 7.24 晴 午後	(日) 7.22 晴 午後
9.20	7.30 6.5 4340	11() 7.15	7.16 20 35 46 9.44 10.00 10.7 0 10	5.108 7.5	0.26
P51 三	カ ン P51 ス キ ー P 4 U ノ リス ・ ア メ リ	P51 各 種 連 二 八	戦 爆 連 合 一 五	艦 上 機 二 五 B B 29 7 5 艦 上 機 二 五 艦 上 機 二 五	P51 三 の 七 〇
機銃射撃	機銃射撃	機銃射撃	投弾	大型爆弾	機銃射撃
()	()	()		()	()
()	若 干			()	()
()	一 三 五			()	()
()	二 四 八			三	()
()	()			三	()
()	()			四	()
()	()			五 〇	()
葦合区(東灘駅・貨物駅)	伊丹・姫路 播磨灘船道 市内神戸西 △神戸西 大阪湾	相生・高砂・神戶港外 相生・高砂・加古川・飾磨・姫路・網干 ・赤穂・播州一円・淡路沿岸	阪神上空、大阪湾 神戸交通機関破壊	川西航空機 西宮・宝塚・明石 葦合区(三菱造船)須磨区 長田区(神戸製鋼、北方山中)	兵庫区東北部

第四節 空襲記録

年月日	時刻	機種・数	弾種	数量	死者	負傷者	全焼壊	半焼壊	罹災者	場所
(日) 8・13	午前 0・30	大型機三	伝單撒布	()	()	()	()	()	()	神戸市の東部 (挿入写真参照)
(土) 3・11	午前 10・40	P 51 B 29	投弾	()	五四	八一	()	()	()	武庫郡本庄村、魚崎町 芦屋市 神戸市東部地区
(木) 8・9	午前 10・30	B 29	投弾せず	()	()	()	()	()	()	市内
(水) 8・8	午前 8・40	P 38 B 29 計 51	機銃射撃	()	()	()	()	()	()	船舶、鉄道
(火) 8・7	午後 11・()	(B 29) 一併	機雷	()	()	()	()	()	()	(各波状攻撃)
6(月) 8・5 公後晴 午後3・0まで	午後9・15	B 29 一三	焼夷弾	()	三	一元	()	()	二〇〇	西宮、芦屋、尼崎、姫路市 六甲山麓外 神戸港外 六甲山麓一円 生田区ほか、灘区(大石、五毛付近) 六甲山麓一円 武庫郡本庄村、木山、魚崎、御影、住吉の各町村、同山麓一円
8・5 6	0・15	()	爆弾	()	()	()	()	()	()	神戸市 本庄、海技専門学校 阪神間、姫路

神戸市罹災状況図(2)

